

男女共同参画社会づくりのための市民意識調査

～ 概要版 ～

南九州市役所 まちづくり推進課 共生・協働推進係

1. 調査の概要

■ 調査目的

前回調査から5年経過するにあたり、男女共同参画に関する市民の意識や実態を把握し、今後の男女共同参画に関する施策の推進を図るための基礎資料を得る目的で実施しました。

■ 調査対象

南九州市に居住する18歳以上の方を対象に2,000人(住民基本台帳に基づき、無作為で抽出)

■ 回収状況 回収数:615 (有効回収率:30.75 %)

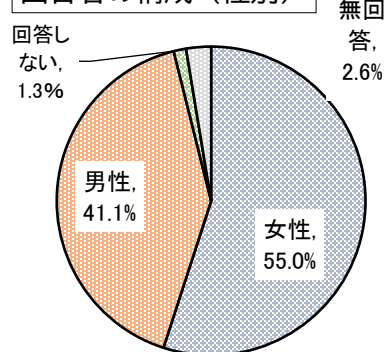
■ 調査期間 令和6年12月9日(月)～令和7年1月10日(金)

■ 調査方法 郵送による配布・回収及びインターネット上での回収

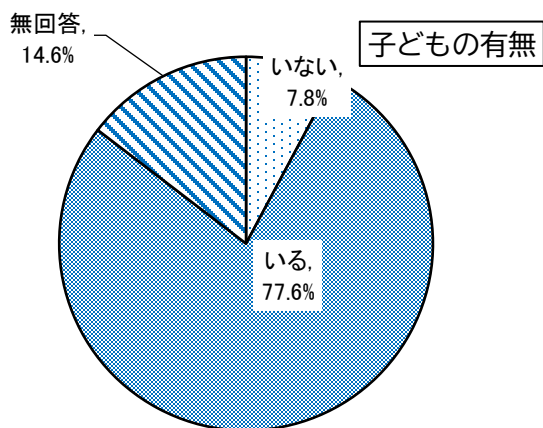
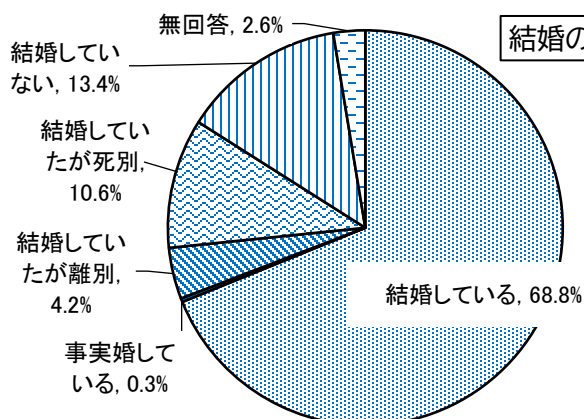
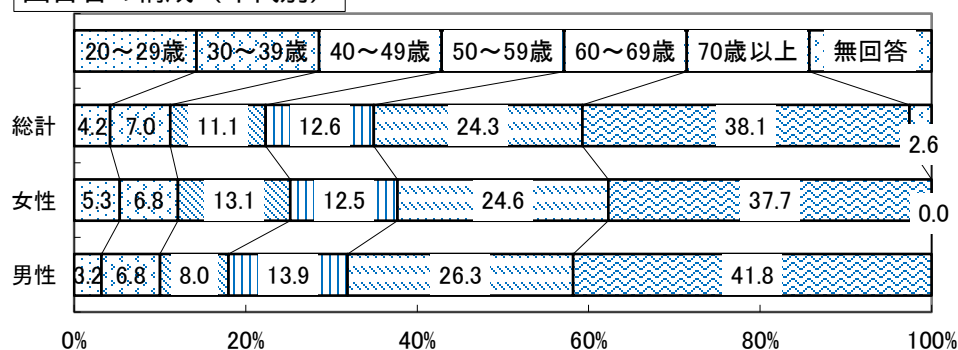
■ 注意事項 集計結果は百分率で算出し、四捨五入の関係上100%にならない場合がある。

2. 回答者の属性

回答者の構成 (性別)



回答者の構成 (年代別)



3. 調査結果の概要

【固定的性別役割や男女の平等感】

固定的性別役割に否定的な方が多数を占める一方で、男性が優遇される場面や家庭の中で依然として妻の役割が大きくなっています。

■「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方については、「否定」する人の割合が「肯

定」する人の割合を大きく上回っています。鹿児島県（R3調査）と国（R4調査）と比較しても、「否定」する人の割合が高くなっています。

- 家庭における夫婦の役割分担については、「自治会や公民館などの地域活動への参加」は「夫と妻が同程度」という回答が多くなっていますが、「家事」、「育児」、「介護・看護」では妻の役割が大きくなっています。
- 各分野の男女の地位の平等感については、「家庭の中で」、「学校教育の中で」、「職場の中で」では「平等（「非常に平等」＋「かなり平等」）という回答が多くなっていますが、「社会通念・慣習・しきたりなどで」、「地域社会の中で」、「法律や制度で」では、依然として男性の方が優遇されているという回答が多くなっています。

【男女共同参画に関連する用語の認識について】

- 男女共同参画の関連用語の認知度については、平成30年度調査（南九州市）と比較すると、「ジェンダー」や「ワーク・ライフ・バランス」を「知っている（「知っている」＋「聞いたことがある」）」人の割合が大きく増加しています。【知っている人の割合】・「ジェンダー」：H30 53.8% ⇒ R6 82.4%（28.6ポイント上昇）・「ワーク・ライフ・バランス」：H28 52.4% ⇒ R6 63.3%（10.9ポイント上昇）

【結婚観などの変化】

- 結婚観については、平成30年度調査と比較すると、結婚に対する個人の自由意志を認める意見（肯定意見）が14.6ポイント上昇し、それに反対する意見（否定意見）が10.6ポイント減少しています。
- 子どもを持つ必要性については、「結婚しても必ずしも子どもを持つ必要はない」との肯定意見が、平成30年度よりも15.8ポイント高くなっています。一方で、否定意見については13.7ポイントの減少が見られます。
- 離婚観については、「離婚は個人の選択であるから、離婚しても問題ない」という離婚肯定意見が31.1ポイント上昇、離婚否定意見が15.8ポイント減少しています。

【育児・介護に関する考え方】

育児と介護の間で社会的支援の必要性に対する認識には大きな差があり、特に介護の方が社会的支援の必要性が強く認識されていることが窺えます。

- 育児に対する社会の支援などについては、「基本的には家族が行うものだが、社会が支援する必要がある」が64.6%と最も多く、「家族だけでは負担が大きいの、社会が積極的に支援する必要がある」が23.4%と次に多くなっています。
一方、介護では、「家族だけでは負担が大きいの、社会が積極的に支援する必要がある」が57.4%と最も多く、「基本的には家族が行うものだが、社会が支援する必要がある」が31.1%と次に多くなっています。

【配偶者等からの暴力について】

- 配偶者や親しい異性から暴力や嫌がらせを受けた経験は、「身体的暴力」の経験率が12.7%で最も高く、「精神的暴力」と「性的暴力」がそれぞれ11.7%、7.5%と続いています。女性はすべてのカテゴリーにおいて経験率が男性より高く、特に身体的暴力(16.5%)と精神的暴力(14.5%)の経験率が高くなっています。
- 暴力や嫌がらせ等についての相談先については、「どこにも、だれにも相談しなかった」が43.3%と最も多く、特に男性が女性よりも13.9%多くなっています。男性は半数以上が「どこ（だれ）にも相談しなかった（できなかった）」と回答しています。

【LGBTについて】

- 性別や性的指向に関する悩みについては、7.0%の人々が自身の身体の性、心の性、または性的指向について悩んでいると回答しています。さらに、LGBTの個々に対する社会的状況については、57.4%がLGBTの方々が偏見や差別などにより、生活しづらい社会だと感じていると回答しています。